

生活防衛意識が高まり、 「貯蓄・資産運用」の傾向が強まる

～2022年冬のボーナス予想調査～

2022年10月の消費者物価指数（全国、生鮮食品を除く総合）は前年比+3.6%と、消費税引き上げの影響を除けば31年ぶりの水準となった。特に原材料価格の上昇と急速な円安の影響が重なった「生鮮食品を除く食料」が前年比+5.9%と大きく上昇した。また、電気代やガス代などのエネルギーも上昇しており、家計の大きな負担となっている。

このような物価上昇により消費が落ち込むことも想定される中、当研究所では第31回目となる、「冬のボーナスの使いみち」についてアンケート調査を実施した。2022年冬のボーナスの使いみちは、「貯蓄・資産運用」の割合が増加し、「買い物」や「飲食」といった支出が減少した。「物価上昇」による先行きへの不安で生活防衛意識が強まっていると考えられる。

一方で、全国旅行支援の影響により、使いみちにおける「国内旅行」の割合は増加した。旅行先をみると熊本県外が増加したのに対し、県内が大きく減少した。買い物需要が減少していることもあり、県外からの観光需要の取り込みが欠かせないものとなるだろう。

【調査結果の概要】

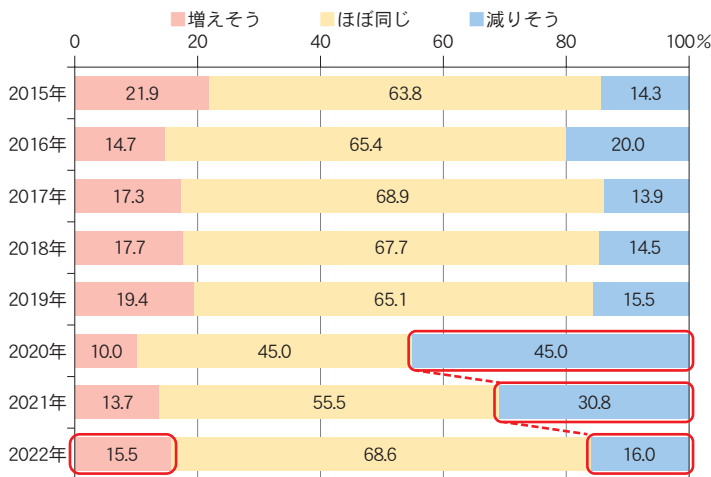
- ボーナスの増減予想：「減りそう」の割合が減少し、コロナ禍前とほぼ同水準。
2020年、2021年に増加していた「減りそう」が16.0%（前年比▲14.8p）と大きく減少し、昨年の約半分になった。
- ボーナスの使いみち：全体の約半数の回答者が「貯蓄・資産運用」を選択。
物価上昇による先行きへの不安を理由に「貯蓄・資産運用」が58.4%（同+1.9p）とやや増加した。一方で、「買い物」は25.7%（同▲1.0p）と4年連続で減少した。
- 「貯蓄・資産運用」の予定：予定総額が増加傾向。個人預金が積みあがる。
予定総額は「20万円超」が40.6%（同+11.2p）と増加している。なお、方法は「預貯金（普通預金・定期預金など）」の回答が多いが、価格変動リスクの高い商品も一定数見られた。
- 「買い物」の予定：予定総額、品目ともに「未定」が減少。
予定支出総額は「10万円以下」が75.7%（同+11.8p）と増加している。なお、予定金額、品目ともに昨年と比べ「未定」が減少しており、計画性が高まり、予定したもののみを購入するという、生活防衛意識が高まっている。
- 「旅行」の予定：全国旅行支援の影響で、県内を行き先とする割合が大きく減少。
旅行先は「熊本県内」が16.7%（同▲27.6p）と大きく減少。県外、特に「近畿」や「首都圏」の割合が大きく増加し、昨年までの近場志向から変化が生じている。

※【調査概要】は9頁に記載

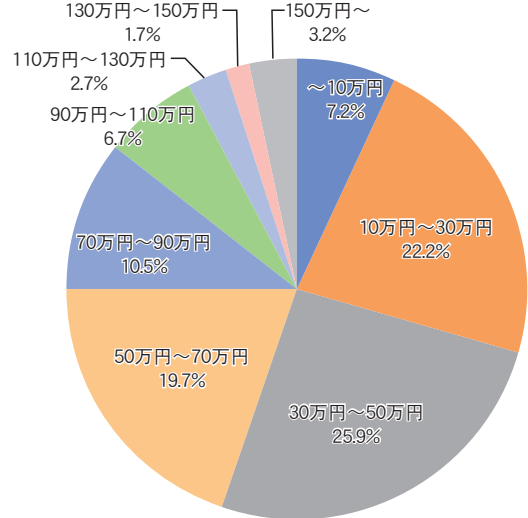
1 今年の冬のボーナス支給予想

- 今年の冬のボーナスは、「増えそう」が15.5% (前年比+1.8ポイント、以下p)とわずかながら増加した (図表1)。
- 前回、前々回で増加していた「減りそう」は16.0% (同▲14.8p)と大きく減少し、ほぼコロナ禍前の水準に戻った。

図表1 ボーナスの増減予想推移



図表2 ボーナス支給金額

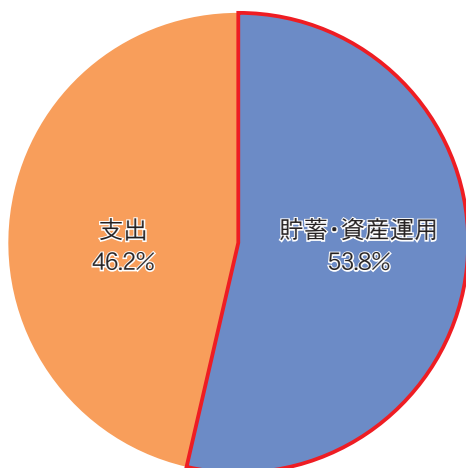


2 ボーナスの使いみち

(1)「貯蓄・資産運用」と「支出」のバランス

- ボーナスの使いみちのうち、「貯蓄・資産運用」へ充てる割合 (金額ベース) は53.8%と支出を上回る (図表3)。
- 自由回答でも、物価上昇による先行きへの不安から、ボーナスは貯蓄へ充てるという意見が多くみられた (図表4)。

図表3 ボーナスにおける「貯蓄・資産運用」と「支出」の割合 (金額ベース)

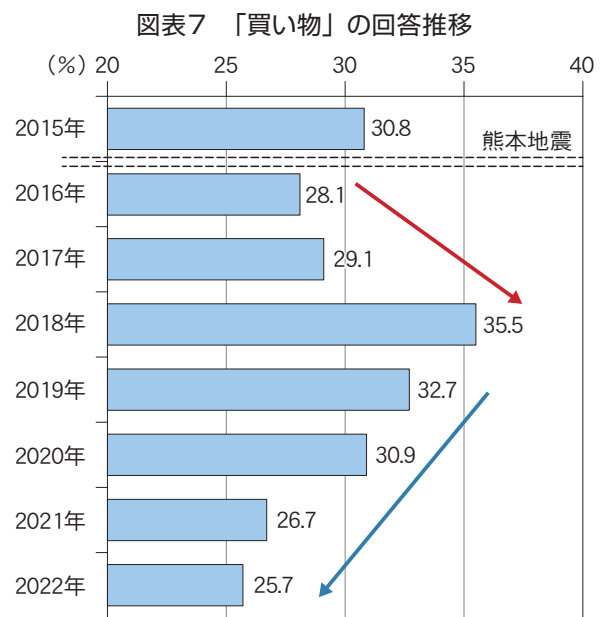
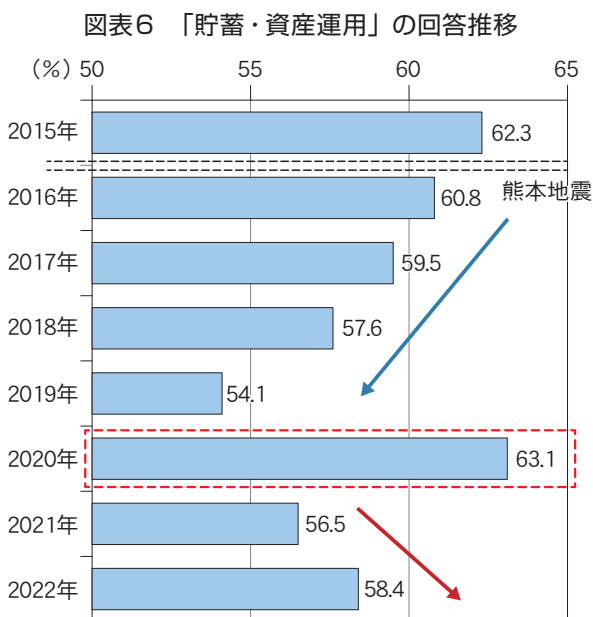
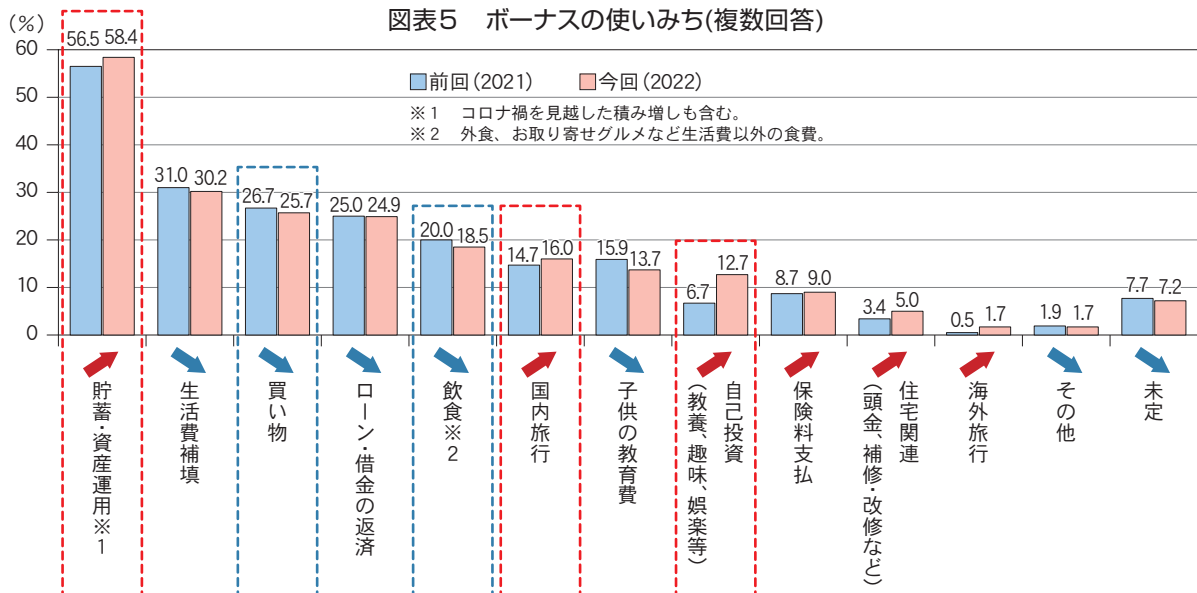


図表4 冬のボーナスに関する自由回答

性別・年代	職業	自由回答
女性20代	民間 (その他)	物価高が続いている為、浪費は控え貯蓄に努める。
女性30代	公務員	支給額は減ることはないが、物価も上昇しているため、できるだけ貯蓄にまわしたい。
男性30代	民間 (技術系)	円安、物価高で先行きが不安なので、使い道は慎重に考える。
男性50代	民間 (技術系)	冬のボーナスが通常通り出るのは嬉しいが、コロナ、円安などが今後どう影響してくるかわからないため、貯蓄に回すことに専念したい。
男性50代	民間 (その他)	物価高なのに給料は上がらないので、生活が厳しく、ボーナスはすべて貯蓄に回します。

(2) ボーナスの使いみち (項目別)

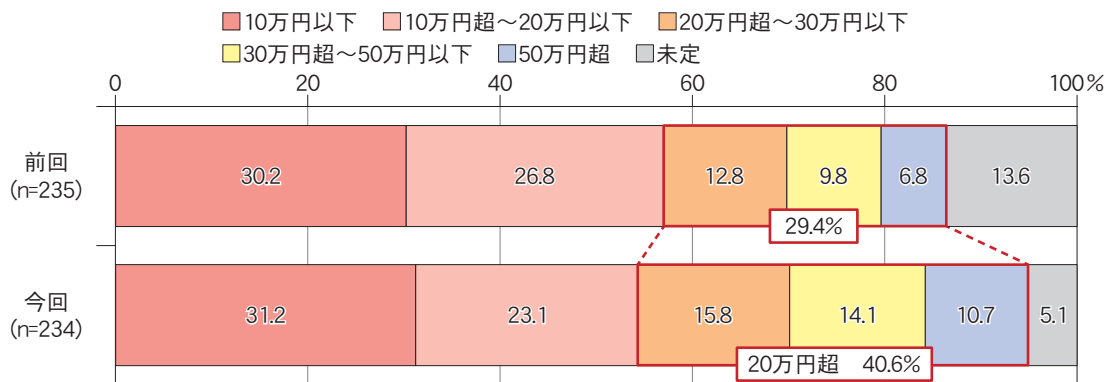
- ボーナスの使いみちでは、前回に引き続き「貯蓄・資産運用」が58.4% (前年比+1.9p) と最多、「生活費補填」が30.2% (同▲0.8p) と2番目に多い (図表5)。
- 「買い物」25.7% (同▲1.0p)、「飲食」18.5% (同▲1.5p) でわずかながら減少した一方で、「国内旅行」では16.0% (同+1.3p) と増加した。
- また、「自己投資 (教養、趣味、娯楽等)」が12.7% (同+6.0p) と大きく増加した。要因としては、働き方改革に伴う、副業や転職へ向けたリスティングへの関心の高まり等が考えられる。
- 「貯蓄・資産運用」は、熊本地震以降減少傾向であったが、2020年に63.1%と大きく増加。その反動により前回落ちこんだものの、増加傾向に転じている。一方で、「買い物」は2019年以降減少傾向が続いている (図表6、7)。



3 「貯蓄・資産運用」の予定

- 「貯蓄・資産運用」の予定総額は、「20万円超」が合計40.6%（前年比+11.2p）と増加（図表8）。
- 項目別平均金額は、回答者数が10人以上の4項目において、価格変動リスクの高い「FX（外国為替証拠金取引）」が235,000円となり、価格変動リスクの無い「預貯金」209,665円を上回っている（図表9）。
- 用途・目的は、「恒常的に行っている貯蓄・資産運用の延長」では40代、50代が、「コロナ禍に備えた、手元資金の確保や積み増し」では20代、30代が他の年代と比較して高くなっている（図表10）。

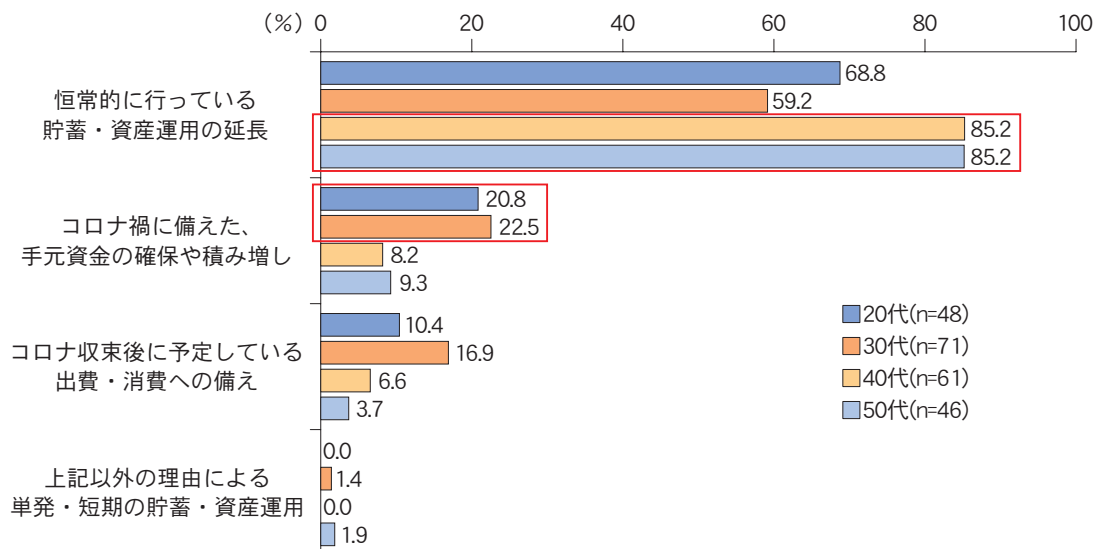
図表8 貯蓄・資産運用の予定総額



図表9 「貯蓄・資産運用資金」項目別平均金額

項目	預貯金 (普通預金・定期預金など) (n=209)	投資信託 (n=58)	FX (外国為替証拠金取引) (n=33)	株式 (n=33)	外貨建て商品 (外貨預金・MRFなど) (n=9)	保険商品 (n=5)	仮想通貨 (n=5)	公共債・社債 (n=4)
平均値(円)	209,665	131,364	235,000	170,833	211,111	340,000	200,000	381,250

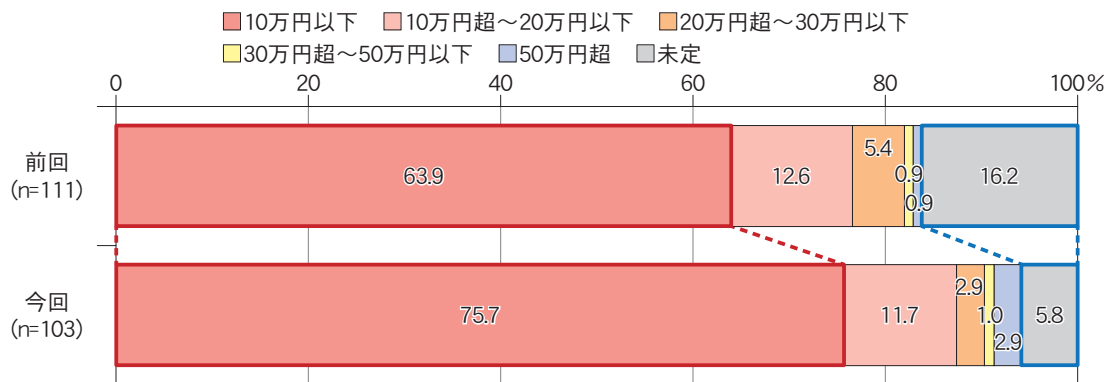
図表10 貯蓄・資産運用資金の用途・目的



4 「買い物」の予定

- 「買い物」への予定支出総額では、「10万円以下」が75.7%（前年比+11.8p）と増加した（図表11）。
- 品目では、平均金額が最も低い「洋服」で購入予定が増加している一方で、平均金額が10万円を超える「家具・インテリア用品」や「時計・アクセサリ」でも購入予定が増加している（図表12、13）。
- 一方、買い物への支出意欲の弱まりや、予定支出金額、品目ともに「未定」が減少していることから、「買い物」において計画性が高まり、予定したもののみを購入する生活防衛意識が高まっていると考えられる。

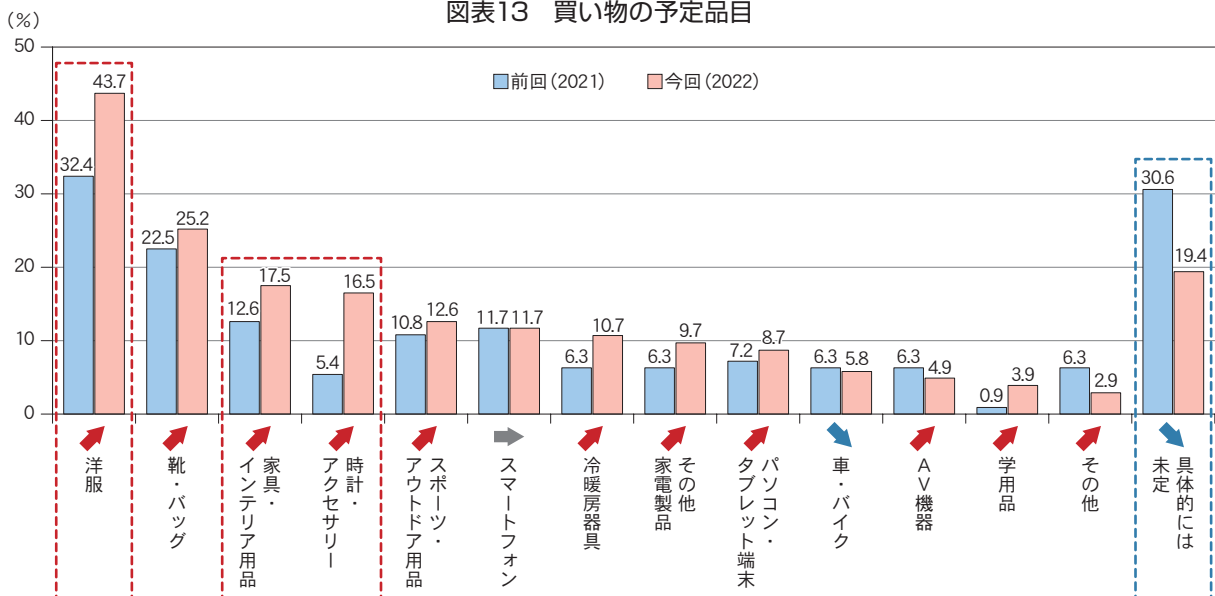
図表11 「買い物」への予定支出総額



図表12 「買い物」品目別平均金額

品目	洋服 (n=45)	靴・バッグ (n=26)	家具・インテリア用品 (n=18)	時計・アクセサリ (n=17)	スポーツ・アウトドア用品 (n=13)	スマートフォン (n=12)	冷暖房器具 (n=11)	その他家電製品 (n=10)	パソコン・タブレット端末 (n=9)	車・バイク (n=6)	AV機器 (TV・DVDレコーダー・ブルーレイなど) (n=5)	学用品 (n=4)
平均値 (円)	63,068	71,875	126,471	106,250	101,923	172,727	147,727	97,222	180,556	220,833	285,000	262,500

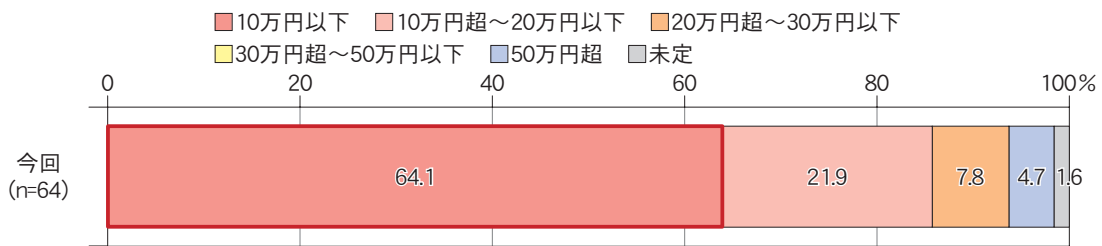
図表13 買い物の予定品目



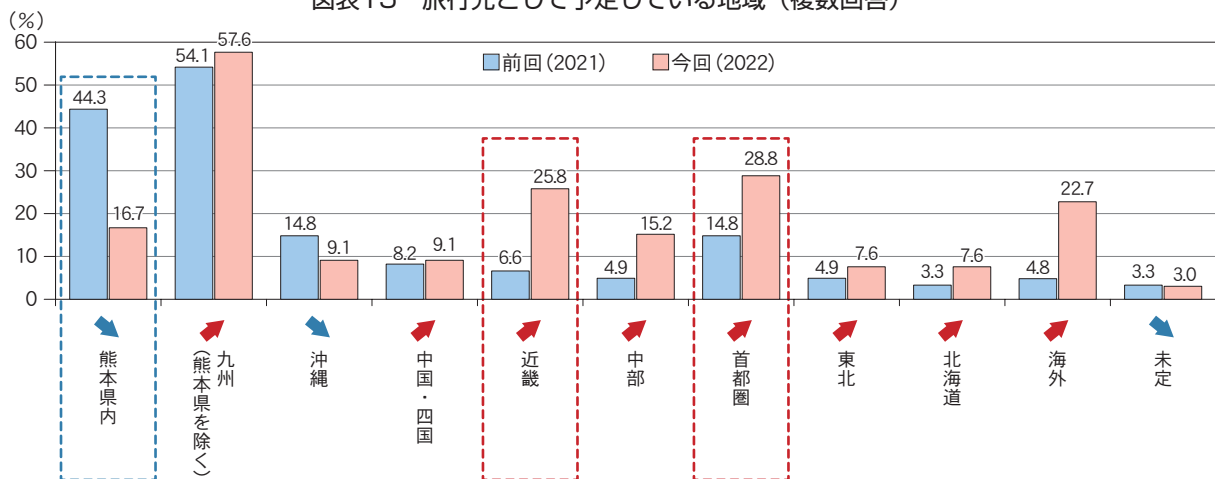
5 「旅行」の予定

- 「国内旅行」の予定支出総額では、「10万円以下」が64.1%と最多（図表14）。
- 旅行先としては、「熊本県内」が16.7%（前回比▲27.6p）と大きく減少し、「近畿」25.8%（同+19.2p）、「首都圏」28.8%（同+14.0p）と増加した（図表15）。
- 旅行先が全国へ広がった要因は、全国旅行支援の開始や、行動制限のない状況の継続などが考えられる。

図表14 「国内旅行」の予定支出総額



図表15 旅行先として予定している地域（複数回答）



【調査概要】

1. 調査対象：熊本県内在住20～50代のボーナスを支給される予定の人（世帯）
2. 調査期間：2022年11月4日～7日
3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：(株)マクロミル）
4. 有効回答：401人
5. 回答者の属性

（上段：人・下段：%）

	年代					勤務先*				
	全体	20代	30代	40代	50代	公務員	経営者・役員	民間（事務系）	民間（技術系）	民間（その他）
全体	401	78	111	111	101	94	5	97	83	122
	100.0	19.5	27.7	27.7	25.2	23.4	1.2	24.2	20.7	30.4
男性	191	25	55	56	55	47	4	42	47	51
	100.0	13.1	28.8	29.3	28.8	24.6	2.1	22.0	24.6	26.7
女性	210	53	56	55	46	47	1	55	36	71
	100.0	25.2	26.7	26.2	21.9	22.4	0.5	26.2	17.1	33.8

*主に家計を担っている人の勤務先